

## 社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名 (ふりがな)	鈴木 まや (会計担当幹事) (すずきまや)	所属	関西学院大学
研究集会等名称	社団法人日本心理学会 味嗅覚と行動の研究会		
成果概要	<p>2009年8月27日開催 第1回研究会 (日本心理学会第73回大会ワークショップ「味嗅覚の記憶—おふくろの味、おやじの匂い—」京都：立命館大学)</p> <p>1) 参加人数        会員 36 名        非会員 1 名</p> <p>2) 集会等の目的・成果等        味嗅覚の記憶について、次の2件の話題をご提供いただいた。①脳機能イメージング手法を用いた味覚の記憶についての先端的研究 (非会員の (独) 食品総合研究所の岡本雅子さん)、②においしの記憶に関する認知心理学的な研究 (奈良教育大学の山本晃輔さん)。その後、研究会幹事の綾部早穂 (筑波大学)、坂井信之 (神戸松蔭女子学院大学) が指定討論を行った。ワークショップを通して参加者からの質問やコメントも活発に上がり、味嗅覚に関心を持つ学会員に、非会員からの応用面も視野に入れた先端的基础研究を紹介することで、関連する心理学領域の研究を刺激する機会を提供することができた。</p> <p>2010年3月19日開催 第2回研究会 (独立行政法人産業総合技術研究所つくばセンター)</p> <p>3) 参加人数        会員 8 名        非会員 13 名</p> <p>4) 集会等の目的・成果等        アメリカの嗅覚分野における主要な心理学者の一人である Claire Murphy 博士 (San Diego State University) の来日に合わせて、Processing of taste, olfactory and flavor information in the human brain と題したご講演をお願いした。また、その後、参加者の研究交流を図るために、ポスターセッションを設けた。Murphy 博士の空腹や満腹などの動機づけを操作して測定した脳機能データや、後鼻腔を介した刺激提示による脳機能計測などの先端的研究が紹介され、心理学にとどまらず、関連領域の研究者に有益な情報をもたらした。さらに、その後の研究交流では、若手を中心に活発な意見交換が行われ、学会員以外の関連領域の研究者との情報交換で、心理学研究の重要性を再確認することができた。</p>		